「活躍する地域の代協」
都道府県代協レポートリレー
第6回
京都代協

まず自分の命を守る行動を取る

――災害対応に必ずしも正解はない

京都代協は本年1月23日、リーガロイヤルホテル京都（京都市下京区）にて新春記念セミナーを開催した。

「住宅火災」「防火・防災の話」については、大きな割合を占めるタバコの不始末や、調理器具（コンロ）からの火災について動画を交え「時間経過とともにどのように火災が広がっていくのか」また「どのような行動をすれば被害拡大を防げたのか」の説明があった。

また「近年の自然災害（風水害・地震）」は、京都では「大阪府北部地震」「平成30年台風21号」による被害を経験し、岡山、広島県を中心に甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」や「令和元年台風19号」と、近年立て続けに大きな災害を目の当たりにしている我々にとって、関心の高いトピックであった。

セミナーのようす

話の中で、岡山県真備町での堤防の越水、破堤による小田川の大規模氾濫のケースで①事前に洪水ハザードマップは住民に配布されていた②多くの住民（75％）はハザードマップの存在を知っていた③多くの住民（80％）は浸水の危険性は低いと思っていた、という興味深いデータを示された。

このデータからの教訓はまず、普段からしっかりと自分の住んでいる地域のハザードマップを確認し、浸水は最大何メートルになるのかを把握、避難ルート、避難場所を確認し、どのタイミングで避難をするのかを決定して家族間で共有しておく。また外に出ることが危険だと感じたら水平避難（指定緊急避難所への移動など）ではなく、垂直避難（自宅の2階以上に避難や山と反対側の居室に避難など）に留めるといった知識を多くの人が理解することが必要ということであろう。

最後のトピックは「クロスロードゲーム」であった。これは、地震など災害時のジレンマなどを体感できるYESかNOで答えるゲームである。体験して感じたことは、災害対応においては必ずしも正解があるとは限らないことや、過去の事例が常に正解でないこともあるということであった。それぞれの災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応すること、また、そのためには災害が起こる前から考えておくことが重要であることに気づかされた。

我々、損害保険代理店は、お客様の生命・財産を守るために、しっかりとした知識が必要である。そして、災害が起こる前から、お客様が内包するリスクを共に洗い出し、寄り添い、誠実に考え、対応・提案することが「顧客本位」の業務運営なのであろう。

最後になるが、よく災害時は「自助・共助・公助」の順番と言われるが、本セミナーで、あらためて、まず自分の命を守る行動をとることが重要であると感じた。災害発生時、お客様やご家族の命をご自身で守って頂くようにアドバイスを行うことはもちろんだが、我々、損害保険代理業に携わる全ての人間も自分の命はしっかりと守らなければならない。我々には、のちのお客様の生活再建へのお手伝いという使命があるのだから。